

学力向上だより “継続と徹底”

第93号 R5.2.27 (月)

佐賀県教育庁教育振興課



佐賀県小・中学校学習状況調査の結果についてお知らせします。 あなたの学校の結果はいかがでしたか？

昨年12月に実施した令和4年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果概要は、以下のとおりです。

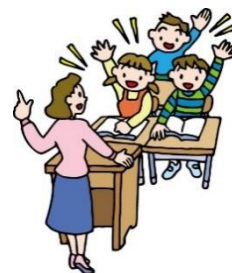
調査結果の概要

平均正答率が、県で設定した「到達基準」に達した教科は、18教科中9教科でした。「到達基準」に達していない教科は、小学校4・5年生算数、中学校1年生国語・社会・理科・英語、中学校2年生社会・数学・理科でした。(小4・5算、中1国・社・理・英、中2社・数・理については次ページ以降で解説しています。)

[各学年・教科の県平均正答率等]

○小学校

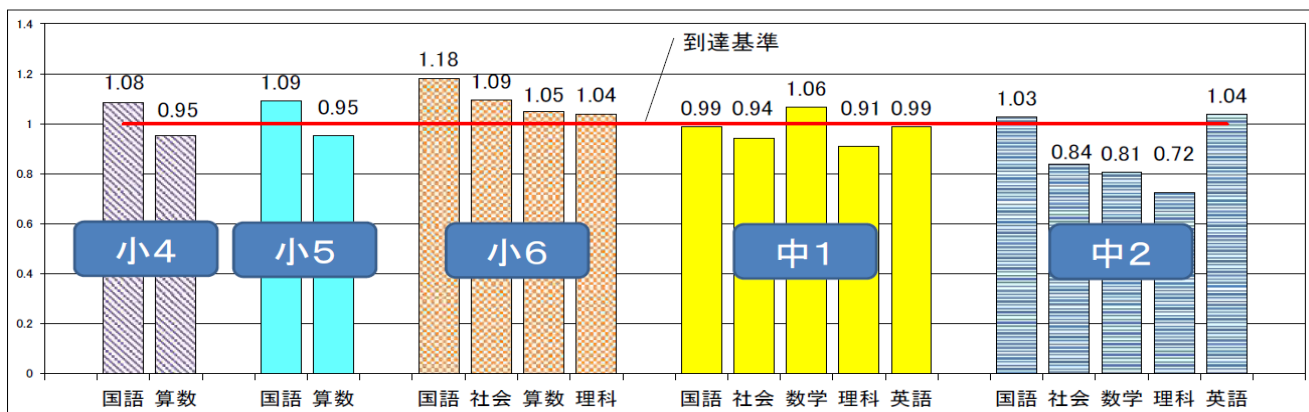
学年	小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生			
	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
平均正答数	9.1/14問	7.8/15問	11.1/17問	7.5/15問	12.5/18問	13/21問	8.1/15問	12.1/19問
県平均正答率(%)	65.0	52.0	65.4	50.1	69.6	62.0	53.8	63.5
無解答率(%)	2.1	5.5	2.6	3.6	3.4	2.9	4.0	0.6
到達基準に対する割合	1.08	0.95	1.09	0.95	1.18	1.09	1.05	1.04
到達基準(%)	60.0	54.7	60.0	52.7	58.9	56.7	51.3	61.1



○中学校

学年	中学校1年生					中学校2年生				
	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
平均正答数	11.4/20問	10.3/20問	11.2/20問	10/19問	11.1/20問	11.3/20問	9/20問	8/20問	8.1/20問	11/20問
県平均正答率(%)	57.2	51.4	55.9	52.6	55.3	56.5	44.9	39.9	40.5	55.0
無解答率(%)	3.9	5.6	7.9	5.6	6.3	3.2	8.2	11.9	5.3	7.5
到達基準に対する割合	0.99	0.94	1.06	0.91	0.99	1.03	0.84	0.81	0.72	1.04
到達基準(%)	58.0	54.5	52.5	57.9	56.0	55.0	53.5	49.5	56.0	53.0

[各学年・教科の到達状況]



今年度の県調査の結果を見ると、資料から必要な情報を読み取ることはできていました。しかし、文章や資料を基に目的に応じて書いたり、事柄や結論が成り立つ理由について筋道立てて説明したりすることに継続して課題が見られます。各学校においても、今回の調査で明らかとなった課題等を踏まえ、共通理解を図り、今後の授業改善に向けた取組につなげていきましょう。

以下に、小4・5算、中1国・社・理・英、中2社・数・理の内容について紹介します。

令和4年度 佐賀県小・中学校学習状況調査 Web 報告書について

佐賀県教育センターのホームページにおいて、県調査の分析結果を紹介しています。

この報告書では、各教科の成果と課題及び指導改善のポイントがまとめられています。是非御覧いただき、各学校における今後の学力向上へ向けた取組に御活用ください。

<https://www.saga-ed.jp/contents/gakujyou/>

小学校4年生算数の結果について

[評価の観点別の状況] ※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	6	70.0	2.0	68.3		1.7
思考・判断・表現	9	40.0	7.9	45.6	▼	-5.6

評価の観点で見ると、「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「数と計算」の正答率は48.5（「到達基準」51.3）、「図形」の正答率は42.6（「到達基準」50.0）、「測定・変化と関係」の正答率は54.6（「到達基準」62.0）で課題が見られました。

小学校5年生算数の結果について

[評価の観点別の状況]

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	8	57.1	2.6	60.0	▼	-2.9
思考・判断・表現	7	42.2	4.7	44.3	▼	-2.1

評価の観点で見ると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「数と計算」の正答率は48.1（「到達基準」50.0）、「図形」の正答率は35.8（「到達基準」52.5）で課題が見られました。

中学校1年生国語の結果について

[評価の観点別の状況]

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	5	63.5	3.9	64.0	▼	-0.5
思考・判断・表現	15	55.1	3.9	56.0	▼	-0.9

評価の観点で見ると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は63.5（「到達基準」64.0）、「話すこと・聞くこと」の正答率は59.7（「到達基準」60.0）、「書くこと」の正答率は55.5（「到達基準」58.0）で課題が見られました。

中学校 1 年生社会の結果について

【評価の観点別の状況】

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	16	56.6	3.3	59.4	▼	-2.8
思考・判断・表現	4	30.7	14.8	35.0	▼	-4.3

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「世界と日本の地域構成」の正答率は 55.5（「到達基準」57.5）、「世界の諸地域」の正答率は 56.5（「到達基準」56.7）、「私たちと歴史」の正答率は 44.9（「到達基準」50.0）、「古代までの日本」の正答率は 47.0（「到達基準」52.2）の全てで課題が見られました。

中学校 1 年生理科の結果について

【評価の観点別の状況】

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	12	60.3	5.3	64.2	▼	-3.9
思考・判断・表現	7	39.4	6.0	47.1	▼	-7.7

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「身の回りの物質」の正答率は 52.2（「到達基準」58.2）、「いろいろな生物とその共通点」の正答率は 53.1（「到達基準」57.5）で課題が見られました。

中学校 1 年生英語の結果について

【評価の観点別の状況】

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	13	54.3	4.2	58.5	▼	-4.2
思考・判断・表現	7	57.0	10.4	51.4		5.6

評価の観点でみると、「知識・技能」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「聞くこと」の正答率は 61.3（「到達基準」62.9）、「書くこと」の正答率は 46.4（「到達基準」51.3）で課題が見られました。

中学校 2 年生社会の結果について

【評価の観点別の状況】

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	16	46.9	5.8	58.1	▼	-11.2
思考・判断・表現	4	36.8	17.7	35.0		1.8

評価の観点でみると、「知識・技能」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「世界の諸地域」の正答率は 48.3（「到達基準」56.7）、「近世の日本」の正答率は 36.3（「到達基準」53.0）で課題が見られました。



中学校2年生数学の結果について

[評価の観点別の状況]

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	12	44.1	6.6	55.0	▼	-10.9
思考・判断・表現	8	33.6	19.8	41.3	▼	-7.7

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「数と式」の正答率は46.4（「到達基準」53.3）、「図形」の正答率は43.6（「到達基準」48.3）、「関数」の正答率は33.7（「到達基準」45.0）、「データの活用」の正答率は30.4（「到達基準」50.0）の全てで課題が見られました。



中学校2年生理科の結果について

[評価の観点別の状況]

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	11	46.5	7.2	63.6	▼	-17.1
思考・判断・表現	9	33.2	3.0	46.7	▼	-13.5

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「身近な物理現象」の正答率は35.2（「到達基準」54.0）、「化学変化と原子・分子」の正答率は48.1（「到達基準」60.0）、「生物の体のつくりと動き」の正答率は50.0（「到達基準」58.3）、「大地の成り立ちと変化」の正答率は23.5（「到達基準」50.0）の全てで課題が見られました。

令和4年度 第2回佐賀県学力向上対策検証・改善委員会 における主な意見

県教育委員会では、学力向上に係るPDCAサイクルの確立の要として、大学関係者、有識者、保護者代表者、市町教育委員会代表者、学校教育関係者で構成する「佐賀県学力向上対策検証・改善委員会」を設置して、県調査や全国調査の結果分析を通じた課題の抽出、指導方法等の検証・改善に向けた協議を行っています。令和5年2月6日に開催した第2回委員会における主な意見を紹介します。

- 子どもが前向きに取り組むためのやる気の引き出し方の研究を、家庭・地域と連携して取り組んでいく必要がある。
- 子どもが主体的に取り組むためには、子どもの考えを引き出し「どうしてそう思うの?」「どうやって調べるの?」と問い返すことが大切である。
- 基礎的な語句を授業の中で使うように子どもに働き掛けることで、基礎的・基本的な知識を定着させることにつながる。
- 資料から情報を読み取る力を付けるためには、幼少期からの読み聞かせが大切である。
- 資料から情報を読み取る力を付けるためには、読書も大切である。一人一台端末を活用する活動と辞書や書籍等を活用する活動とのバランスを取ることが大切である。
- 家庭では、調査の結果のみを見るのではなく、問題内容について話題にすることも、子どもが主体的に取り組むことにつながる。
- 「固定的マインドセット（どうせ無理だ）」から「成長的マインドセット（やればできる）」へ置き換えをするには、過程に目を向けて認めることが大切である。

